

# 「電頭関連の業績」風戸賞と研究奨励賞授賞式 4氏受賞



前列左から6・8番目が風戸賞の内田・中川両氏、5・9番目が奨励賞の柳澤・鈴木両氏、7番目が田中理事長、3番目が栗原日本電子社長。ほかは来賓、財団役員ら。

勲賞は35歳以下を対象に、同分野において実績があり、かつ将来性のある優秀な研究者に研究助成金200万円を贈呈するものである。

風戸賞は埼玉工業大学先端科学研究所准教授・内田正哉氏の「軌道角運動量を搭載した電子ビームの実現」とカリフォルニア大学サンディエゴ校生命化学部門アシスタントプロフェッサー・中川輝良氏の「電子顕微鏡を用いた脳グルタミン酸受容体複合体形成過程の解析」に贈られた。風戸研究奨励賞はスイス連邦工科大学チューリッヒ校量子エレクトロニクス部門博士研究員・柳澤啓史氏の「極低温レーザー誘起電界放出電子のコヒーレンス計測」とノースカロライナ大学チャペルヒル校生物学部博士研究員・鈴木應志氏の「細胞分裂を制御するオーロラキナーゼの超高分解能時空間解析」に贈られた。

財団法人風戸研究奨励会（田中通義理事長）は2月25日、東京・大手町の経団連会館で今年度（第5回）の「風戸賞」「風戸研究奨励賞」それぞれ2人の授賞式を行った。

風戸賞は45歳以下を対象とし、電子顕微鏡・関連装置の研究・開発、および電子顕微鏡・関連装置を用いた研究（医学、生物学、材料学、ナノテク、その他）において優れた業績をあげた若手研究者に褒賞として副賞50万円とともに贈呈するもの。また、風戸研究奨励

風戸研究奨励会は日本電子の創設者で社長であった風戸健二氏が昭和43年同社の創立20周年を記念して、私財から同社の株券等の寄付を行い翌44年に設立した財団法人である。風戸氏は海軍機関学校卒で現在94歳。